

第3回  
全国家庭教育支援研究協議会

地域活動への広がり「学コミ」

2012年2月12日

学びのコミュニティ推進委員会  
ふれあい学びねっとい・ず・み委員長 齋藤純子  
(特活)せんたい杜の子ども劇場代表理事

「学びのコミュニティ推進事業」

目的

- ▶ 子どもの健やかな育ちを支援する人間関係を地域に育てる
- ▶ 子どもたちの社会参加体験や遊びを通してコミュニケーションの力を育む



- ◇ 諸団体のネットワークづくりの推進
- ◇ 事業の企画運営実施
- ◇ 社会教育の推進
- ◇ 子どもをキーワードにした地域づくり

# 「学コミの構成」

## 始まりは10年前

- ▶ 生涯学習課よりの委託事業として出発
- ▶ 対象は校区に住む子どもたち
- ▶ 現在は市内30カ所で行われている
- ▶ 事務局は市民センター、小学校等が担っている  
コーディネーター的機能（主導ではない）
- ▶ 構成メンバー：小中学区内の諸団体、グループ



地縁的団体、NPO、グループ、小中学校、PTA、企業、子ども会育成会、社会教育主事会など多彩

## 学コミが教えてくれること

地域	子ども	大人
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域教育力</li><li>・ 地域力</li><li>・ 人を繋ぐ</li><li>・ 人材発掘</li><li>・ 地域のよさを再確認</li><li>・ 新しい風</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子ども同士の交流</li><li>・ あそび体験</li><li>・ 様々な大人との出会い</li><li>・ 気づき</li><li>・ 社会参画</li><li>・ 自己肯定感</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 達成感</li><li>・ 共感する</li><li>・ 連帯感</li><li>・ あそび心</li><li>・ 出会い</li><li>・ 子どもへの理解高まる</li><li>・ 地域理解</li></ul>

## 学コミ10年の成果（1）

### \*\*\*地域のネットワーク構築\*\*\*

- ▶ 構成団体のネットワークが広がった
- ▶ 相互の理解が進んだ・・・顔が見える関係
- ▶ 団体の特色を事業に反映できた
- ▶ 企業のCSR（社会貢献）が現実化した
- ▶ 保護者がボランティアスタッフとして参加
- ▶ 学校間PTAの交流が広がった
- ▶ ボランティアから地域諸団体のリーダーへ



- 子どもたちを支援する方法について視野が広がった
- 地縁+「思い」の繋がりが地域社会を活性化

## 学コミ10年の成果（2）

### \*\*\*子どもたちの変化\*\*\*

- ▶ 中学生がボランティアへの関心を持ち実践した
- ▶ 仲間と一緒に考え実行する喜びを味わった
- ▶ 小学生が自らやりたいことを表明するようになった
- ▶ 交渉力がついた
- ▶ 参加者からスタッフへ

小学生→中学生→高校生



子どもたちが地域で活動できる場を確保し、それを支援する大人の受け皿づくりが重要

## 学コミ10年の成果（3）

**\*\*\* 学校・市民センターが変わった！ \*\*\***

- ▶ 学校施設の地域への全面解放が実現できた
- ▶ 学校が地域に近づいた！
- ▶ 教師の積極的に事業へ参加する姿勢がふえた
- ▶ 市民センターのコーディネート力が高まった
- ▶ 地域のボランティア参加が促された
- ▶ 学校や市民センターへの理解が広がった



従来の地縁的關係だけでなく、NPOや企業などを巻きこんだ「地域の教育力」の方向性を確認できた

## 大切にしたこと

- シニア&ジュニアリーダーと中学生を結ぶ
- 高校・大学生のボランティアへの広がり
- 大人は縁の下の力持ち
- 市民センターのコーディネーター力
- 地域への広報活動
- 地域社会・NPO・企業・学校の協働をめざす
- 自らの一歩
- ピラミッド型からWIN WINの関係



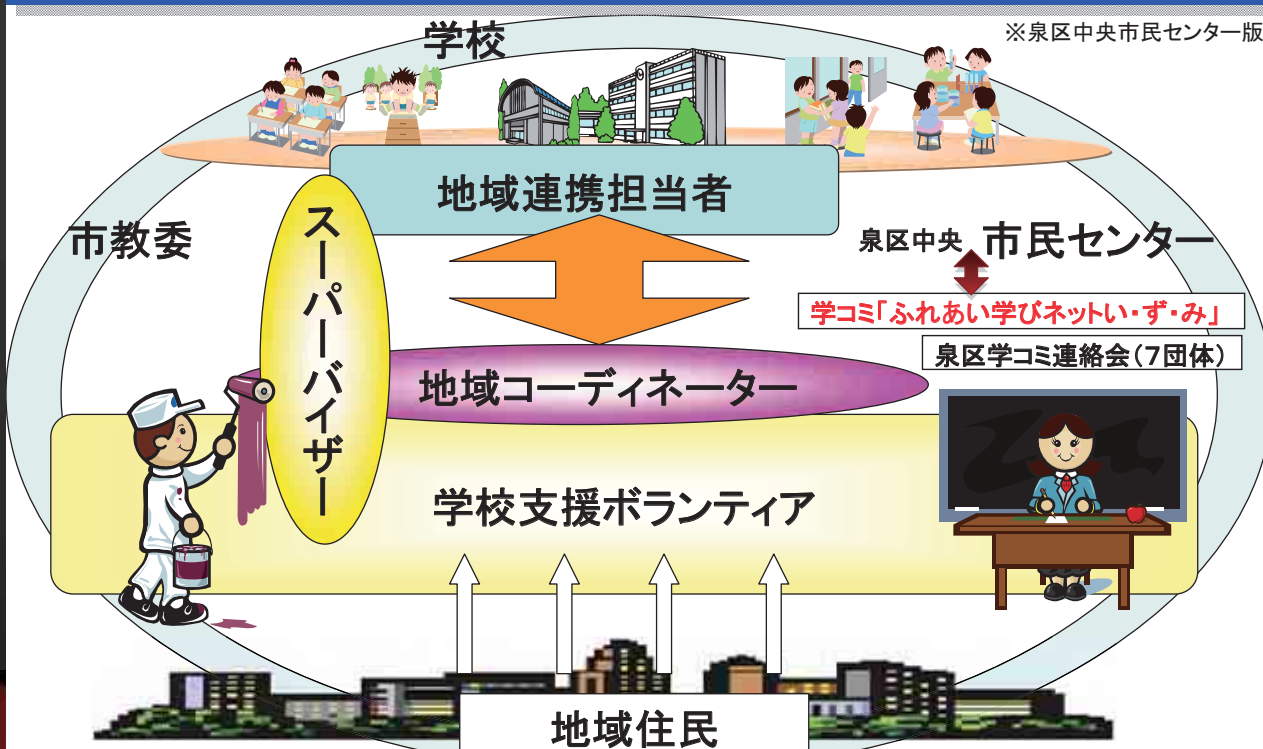
**子どもの育ちの応援団**

# 活動の方向性について

- ・ 事業を継続すること！
- ・ シニアリーダー，中・高学生，小学生のつながり
- ・ 小学校 & 中学校の交流
- ・ 地区の人的，物的，ソフト面の活用
- ・ 子どもの参画を促す企画
- ・ 子どもの居場所づくり
- ・ 世代間交流・・・大人も楽しむ
- ・ 子どもを支援する輪を広げる
- ・ 学校と地域を結びつける

➡ **学校支援地域本部事業**

## 仙台市の学校支援地域本部

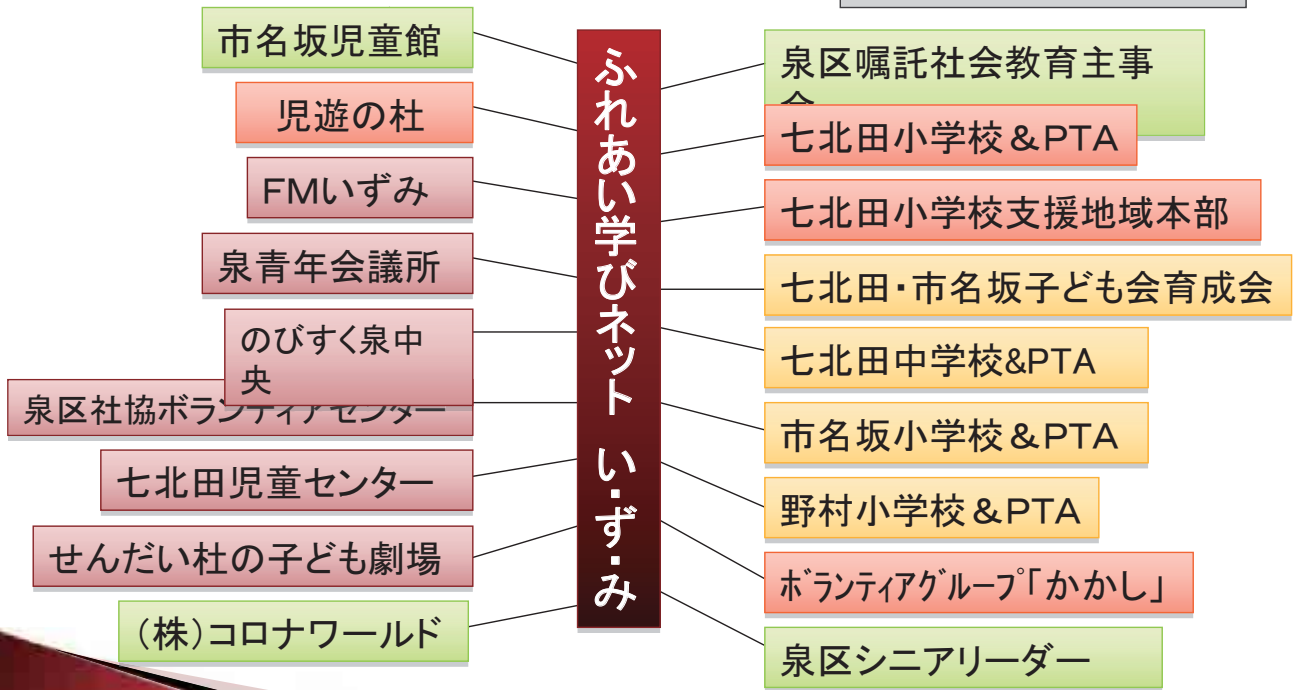


資料提供：仙台市教育委員会 確かな学力育成室



# 「ふれあい学びネットい・ず・み」の構成

七北田中学校区が対象



事務局: 泉区中央市民センター

## キャンプだホイ!





- 学校, NPO, 地域企業, 児童館, PTA, 育成 会といった広いネットワークで子どもの居場所づくりを進める。学生やJLの関わりも多い。



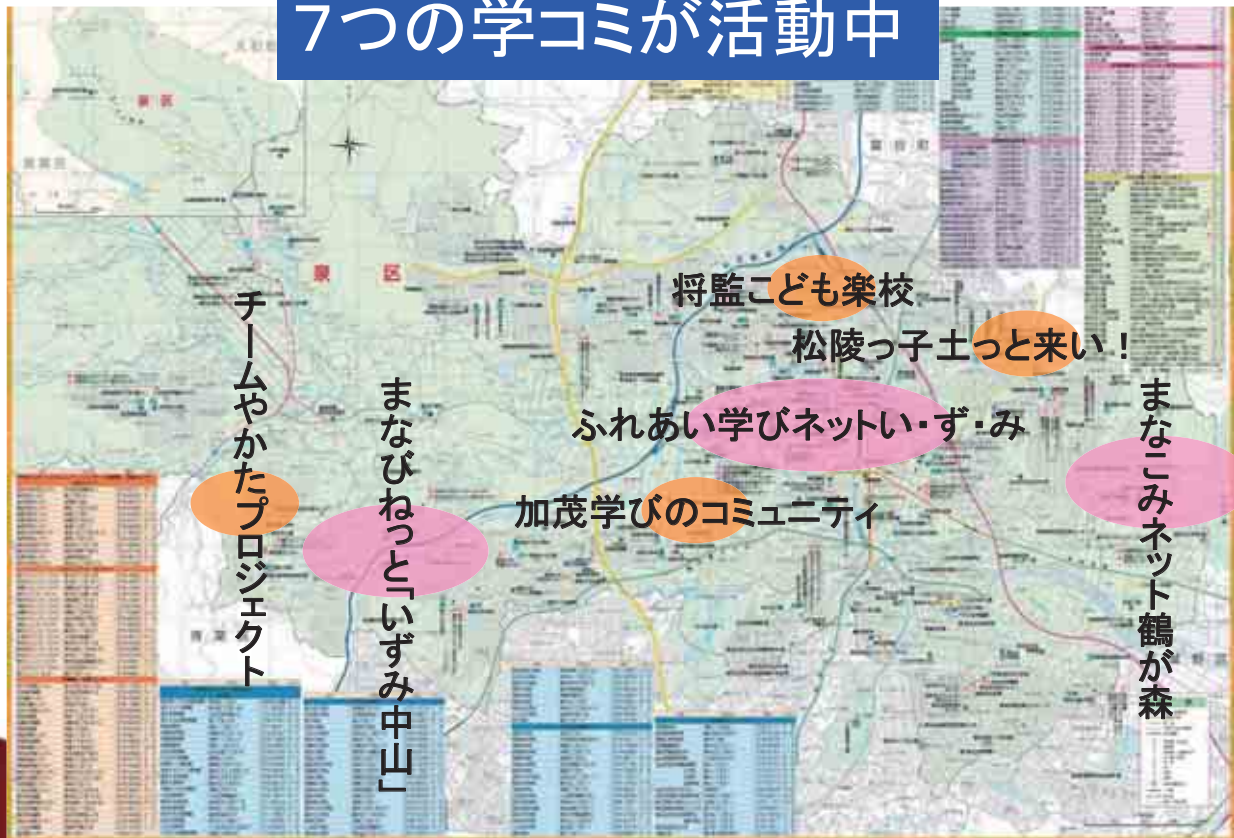
「七小ゆめフェス」「市小カーニバル」には、学コミとしてブース参加。





# 広がる学コミ（区内の学コミ紹介）

7つの学コミが活動中



## ネットワークづくりをめざして



### 顔の見える関係づくり

（人・もの・ノウハウ）

#### ① 仙台市内学コミ会議

生涯学習課が主催。年2回の情報交換会。

#### ② 泉区学コミ連絡会

泉区中央市民センターが主管、平成21年  
第1回を実施。年2～3回開催。

\* 会場は7団体で持ち回り制



# 泉区内学コミ連絡会のめざすもの

区版「もの・達人バンク」の活用

交換

情報の共有と交換  
学コミカレンダーの活用

共有

人・物の共有

協働

連合事業の模索  
それぞれの特技を  
生かした連合行事

委託終了後の活動をフォロー  
区内の地域教育力を強化

第3回  
全国家庭教育支援研究協議会

地域活動への広がり「学コミ」

おしまい

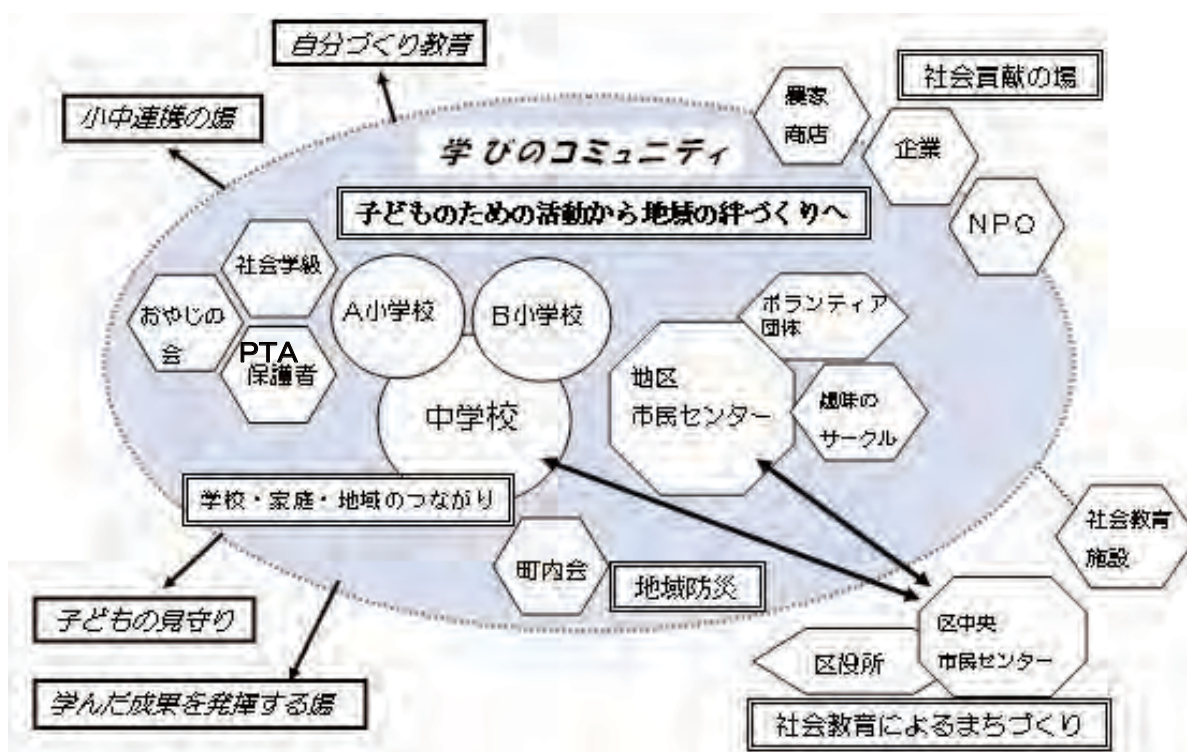
# 学びのコミュニティづくり推進事業について

仙台市教育委員会 生涯学習課

学びのコミュニティづくり推進事業は、学校・家庭・地域社会の各団体が緩やかに結びつき、それぞれが持つ教育機能を相乗的に発揮しながら、地域における子供たちの学びを支援する仕組みを作ることを目的としている。学校や市民センターが事務局となり、地域の様々な団体（PTA・町内会・ボランティア団体・市民活動団体・NPO・企業等）が連携し、中学校区または小学校区の児童、保護者、住民等を対象として、地域の実情に合わせて子供と大人の交流や自然体験、社会体験等の事業を実施している。

## 【主な活動例】

- 「ふるさと探検」「川・ダムでのEボート体験」「だんごさし・しめ縄づくり」
  - 「親子雪遊び体験」「防災キャンプ」「こどものまち」「通学合宿」「巨大紙相撲」等
- ※ 平成13年度から実施。平成23年度委託（200千円/年）12団体（予定）  
別途委託期間（3年）終了後も自主実施22団体



# 学びのコミュニティの広がり

- ・ 仙台市内30地区で実施されている  
(平成23年生涯学習課予算は12地区)



「西山っ子ニコニコ楽校」



「まなこみネット鶴が森」



「ふれあい学びネットい・ず・み」



「チームやかたプロジェクト」



「がんばれ秋保っ子」



「旭ヶ丘わんぱく森<sup>2</sup>がっこ」



まなびねっと「いずみ中山」

# 学びのコミュニティの広がり

- ・ 地域の課題を解決するための取り組み
- ・ 地域の団体の力を活かす機会を創出
- ・ 地域素材や人材を活かす機会を創出



「榴ヶ岡かいわい学びのコミュニティー」



「加茂学びのコミュニティー」



「通学合宿連坊」



「ひがろくおやネット」



「福室学びのコミュニティー」



「上愛子学びのコミュニティー」



「松陵っ子、土っと来い！」



## 分科会1 「子どもの学びを支える学校を核としたコミュニティづくり」

### 事例発表1 学びの活動への参加が生み出したもの

～地域共生科と学校支援地域本部の実践から～

仙台市立七北田小学校長 内藤恵子

#### I 東日本大震災

##### 1 七北田地域避難所運営と学校再開まで ～地域・関係機関との協働～

エピソード① 投稿

エピソード② 入浴

エピソード③ 余震



#### II 「地域と共に歩む学校」経営

##### 1 地域共生科

##### 2 学校支援地域本部

##### 3 サポーターとパートナー

##### 4 親の学び



エピソード④ 子どもが変わる おばあさんの話

エピソード⑤ 親が変わる 保護者の話

エピソード⑥ 地域が変わる 連合町内会長さんの話

エピソード⑦ 行政が変わる まちづくり推進課長の話



#### III コミュニティ活性化の事例

##### 1 かかし・ごとごと・にこにこ・七の川

##### 2 子ども会育成会

##### 3 町内会報

##### 4 はつらつクラブ



#### IV 提案

##### 1 「活私開公」は親も子ども

##### 2 子育ては学校と共に

##### 3 子育ては仲間と共に

##### 4 子育ては地域の中で



### Ⅲ 3年間の取り組みへの声

#### 1 パートナーから

- ・何かを教えるというのではなく、一緒にやるというスタンスのパートナーの活動は楽しいです。
- ・我が家は転勤族でいずれはこの地を離れるのですが、パートナーとして関わったことで、歴史や人とのつながりなどを学び、さらに愛着ある思い出に残る土地になりそうです。
- ・親子の会話が多くなりました。ふだんあまり交流のない方とお話することができ、勉強になりました。
- ・自分自身が勉強する必要に迫られ、目標・目的があって心身共によかったと思います。
- ・子どもたちの普段の様子、活動の様子を長い期間にわたって見ることができ、成長も感じられ、よかったと思います。
- ・先生方や保護者の方と話す機会が増えたこと、子どもたちと触れあえたことが一番よかったことです。
- ・いつもは話をしない子どもと交流でき、意外な一面を見たり、楽しい時間を過ごせたりしたことがよかったと感じています。
- ・参観日等よりも身近に子どもたちと触れあえ、とても楽しくよかったです。子どもたちも親しみをもって接してくれました。
- ・子どもたちの方が多くのアイディアをもっており、パートナーの方が勉強させられたことの方が多く感心させられました。
- ・「ありがとう」という言葉がどれだけ大切かわかりました。誰もが言われたい、言って欲しい、言ってみたいのだと実感しました。声にして言葉にしたときの喜びが、それぞれの立場の人にあるのだと思います。
- ・一緒に活動してみて、「かわいいな」「なんだか楽しい！」と思いながらできました。1年生なので、学校ではどんな感じかなと気になっていて、参観日以外にも学校へ来る用事があるっていいなと思いました。
- ・子どもたちの行動、性格の違いなどを把握することができ、子どもの個性を尊重することができるようになりました。また、先生方、他のお母様方との交流が図れたことも貴重な体験となりました。
- ・児童の成長ぶりを直に感じることは、とても充実した体験でした。
- ・かかわった児童の発表を見て、感激・感動しました。
- ・子どもたちの名前と顔が一致して、コミュニケーションがとりやすくなりました。子どもたちからも道ばたで会うと声を掛けられたりしました。いつも挨拶をしてくれます。
- ・一緒に活動する中で、子どもたちが「一人でできた！」と喜ぶ姿を見られたことが一番嬉しかったです。子どもたちだけでなく、保護者同士もクラスの違う方と話す機会が得られてよかったです。

#### 2 保護者から

- ・地域の方々が自分たちの気付かないところで、いろいろな活動をして、自分たちが助けられ

ていることが分かったと思います。さらに、自分たちも地域の一員としてどうしたら役に立てるかを考える機会になったと思います。子どもだけでなく家族も同じように学習することができました。

・地域共生科の授業を通じて、社会で生きていくために必要なスキルが身に付いて行くように感じます（知識、経験、コミュニケーション力等）。

・地域には様々な人が住んでいて、お世話になっていると言われても子どもには実感がないと思いますが、この取組によって、いろいろな活躍をしている人たちを知ることができ、震災によってその活躍を目にしたこともあり、とてもよい活動だと思います。そして子どもたちの中にも、地域のために何か行動してみたいという気持ち生まれ、「自分で考えて行動する力」が身に付くことは将来において何の仕事も選んで必ず役に立つことだと思います。

・地域共生科の学習を通して、地域の機関や人々とかかわることができ、社会の中で生きる一員としての実感が芽生えていることを感じます。グループに分かれて活動することで、より主体的に学ぶことができているのではないかと思います。この科目について、先生方だけでなく、保護者や地域の人々が一体となって育てている感じがして、本当によい取組と心から思います。

・違うクラスの友達とも学習（交流）する機会がもてることは、とてもよいと思います。普段の授業とは違う先生やお友達の中で、意見を出し合ったり、みんなで一つのものをつくり上げたりする活動もとても貴重な経験だと思います。

・一番の願いは、これからもずっと地域共生科の授業を続けていただきたいということです。なかなか地域、社会とかかわることが少なく、家庭で話題になることもなかったのに、入学して2年、子どもも私たち家族も変わりました。とてもありがたいと感謝の気持ちでいっぱいです。

・核家族が多くなり、転勤族が多い七北田の最近の地域性を考えると「地域共生科」のように学校の授業の中に地域を知る機会を与えてもらえるのはとてもうれしいことです。自分たちの暮らす地域に愛着が生まれるよい機会になると思います。

・地域を元気にしようという一年生のテーマで行われたお祭り、自分たちで考えて、みんなで作りあげた御神輿を元気よく担いでいく姿に子どもたちからパワーをいただきました。元気にしていくのは、やっぱり子どもたちの笑顔でした。5年生のラジオ放送も聴かせていただきました。いろいろな方々が地域のことを考え行動していることを知り、自分たちも地域のためにがんばっていききたいという思いが伝わり、とてもすばらしかったです。地域に深くかかわることで生活にもよい影響を与えていくと思うので、これからも続けてほしいです。

・国語や算数のように答えが○か×か、はっきり出る教科とは違って、今回の取組が子どもにとって大きな自信につながったような気がします。

・子どもたちが幼稚園児の目線に合わせて、相手のことを思いながら進めているところは、すごく大切なことだと思いました。うちは一人っ子なので、よい経験をさせてもらっているなと思います。子どもも最後までやりきったことに満足感でいっぱいでした。

・先生方やパートナーの方、ゲスト（地域の方）とかかわりながら、グループごとに話を聞いたり、自分の考えを発表したりすることは自分の自信につながり、他者とのコミュニケーションをとることで幅広い分野について学ぶことができたと思います。その中で興味あること、今

でも将来でも自分がやりたいことなど発見できたりすると無限の可能性を秘めた魅力ある楽しい授業になるのではないかと思います。

- ・息子は学習を通して自己肯定感を実感することができました。

- ・学年が上がるごとに、それぞれ地域共生科が楽しいと言っています。地域の方々とのふれあいはもちろんのこと、自分たちで考え、形にし、実行し、達成感を味わうことに喜びを感じているのだと思います。

- ・保護者の立場から見た「地域共生科」はとてもよいものでした。子どもたちは学校の枠を超え、多くの地域の方々と活動することができました。昨年、同居の母が3年生の教室に参加し、「本当に楽しかった。」とうれしそうに話しておりました。地域のご年配の方にとってもまさに「オアシス」だったのだらうと思います。他校の校長先生が「七北田小の地域共生科はすばらしい。地域の方々の協力もとてもうらやましい。」と話しておりました。そのお話を聞いたときとてもうれしく思いました。

- ・七北田の歴史について、息子から話を聞けてとても興味深く、子どもも自分の住んでいる地域がますます好きになったようです。それと地域産業にも貢献できていると思います。すいせん通りも歩いていて気持ちがよいです。

- ・3年間の取組を通して、子どもたちが地域とのかかわりをもつことで、お互いが育て合う関係となり（子どもと地域の方々）、地域と共に歩む学校像が根付いて来ている感じがしました。地域共生科の話合いを重ねる中で、子どもも自分らしさを発揮できている感じがし、一人一人確実に成長していることが感じられました。

- ・毎日の勉強の他に地域の方々とのやりとり、その中で学ぶ様々な出会いの中で、みんな少しずつ大きくなっていったと思います。七小の子どもたちは立派な挨拶ができるねとか、しっかりした子どもたちだね。など、たくさんほめていただき、母としてうれしく思います。

- ・先生、子どもたち、保護者、地域の方々“つながり”があることはよい点がたくさんあるんだなと思いました。娘もチラシ配りや折り紙のプレゼントを区役所やペDESTリアンデッキでしたときに、相手の方が大変喜んでくださったようで、うれしい気持ちでいっぱいだったようです。子どもたちの“元気”や“やさしさ”が多くの人の「笑顔」になりますよね。

- ・この授業のおかげで「地域の人がね・・・」「地域がね・・・」と子どもが、家・学校・地域を意識して話すことが多くなりました。

- ・何よりもよかった点は、地域という身近な環境を題材に一人一人が意見を題材に一人一人が意見を出し合い、考え、行動し、協力しながら目標を達成するという本当に子どもにつけたい力、自己肯定感や交渉術などが身に付いてきたのではないかとこの点です。特に6年生は少ない人数でプロジェクトを成功させなくてはならず、期限もあって大変そうでしたが、一人一人が役割をもちながら、互いに協力し合うことの大切さも学び、これから中学、高校と成長していく中で、地域共生科の経験が生かされていくのではないかと期待します。

- ・地域の方々とのふれあったり、地域のことを自分たちで調べたり、生きていく上で、とても大切なことを学べていると思います。子どもたちはそれ以外にも表現力や思考力等、大人でも難しいところをたくさん学んで成長していてとてもよいことだと思います。

- ・自分の生まれ育っている地域を知ることは大切なことだと思います。両親共、仙台は生まれ

育った町ではないので、なかなか地域の様子を教えることは難しいところがあり、逆に子どもたちの地域共生科の取組を聞いて、私たちも知ることができています。家庭だけでは教えられないことを子どもたちは地域の方々との出会いを通して教えられ、子どもたちなりに感じるものがあるようです。子どもたちが感じた姿を見て、こちらも考えさせられ成長をうれしく思っております。子どもたちの成長に感謝するとともに、学校と地域に任せっきりにすることなく、私たち親も地域とのかかわりを積極的に考えていかなければならないと思っています。